

支部だより

～第9回中国四国支部大会～

金原加苗¹, 永野真吾²

¹ 岡山大学薬学部

² 鳥取大学大学院工学研究科

平成19年に四国支部として発足し、翌年より中国四国支部として衣替えし昨年10周年を迎えた本支部では、海、山で隔てられている各地の生物物理学研究者の交流や共同研究の契機となることを期待し、中国四国各県の持ち回りで支部大会を開催しております。昨年松山大学の奈良敏文先生と田母神淳先生のお世話で行われた第9回大会で2巡目に入りました。本稿ではこの支部大会、特に英語口演と若手発表優秀賞について、受賞者の金原加苗さん（岡山大学薬学部）と共に報告します。

第9回中国四国支部大会（松山大学）

本支部大会では前支部長の楯先生のご尽力で、前回より英語口演を行った学生、若手研究者を選考対象に若手発表優秀賞が設けられています。生物物理学学会年会では2009年の徳島大会より英語での口頭発表が導入され、その後しばらくは英語での口演やディスカッションのハードルの高さや学生が発表する場合には指導教員の（大きな？）負担など、様々な意見が出ていたように記憶していますが、最近では生物物理学学会での口頭発表は英語で行うことがすっかり定着したように感じられます。中国四国支部大会では、一昨年は6件、昨年は4件の英語口演が行われました。例年、発表総数が30件前後であることを考えると、まずまずの応募数でしょう。今年度の英語口演を聞いて発表だけではなく、ディスカッションも英語で対応できるよう準備された跡が多うかがえました。ほぼ、全員が初めての英語口演かと思いましたが、すでに英語での発表経験がある方が少なくなかったようで、近年主要大学のみならず地方大学でも国際化が強く求められた

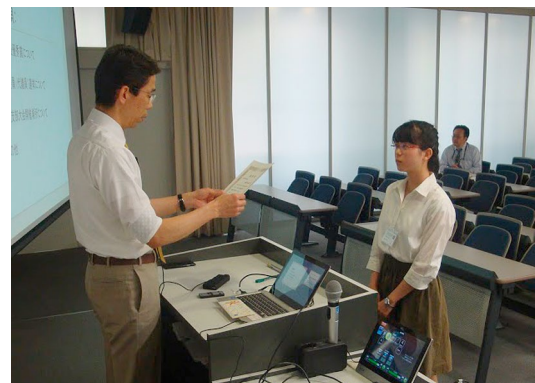
結果進められている英語教育等の成果が現れつつあるように感じられました。応募者を見渡すと中国四国各地から幅広くとは言えませんが、昨年は和歌山高専から沼優さんが英語口演を行われました。沼さんに続いて今後、より多くの研究室から応募されることを期待しております。

本支部大会は参加者が50名程度と小規模の会ですが、口演のみでは議論の時間が限られています。そこで、第6回の鳥取大会より、口頭発表者は原則として全員ポスター発表も行っていただき、幅広い分野の研究者の間で議論を深めております。第9回の支部大会でも初日、二日目と口演終了後にポスター発表が行われました。初日はポスター発表に続いて懇親会が同じ会場でシームレスに行われたこともあり、英語口演を終えリラックスした学生の皆さんとポスターを前に議論をしたり、英語口演やその準備の苦勞について話を聞いたりすることができました。これから若手の良い教育システムとして英語口演の機会が活発に活用されることを願っています。

若手発表優秀賞 金原加苗さん

第9回生物物理学学会中国四国支部大会の第2回若手発表優秀賞を受賞させていただきました岡山大学薬学部5年の金原加苗（指導教員：須藤雄気教授）と申します。今回、中国四国支部長の永野真吾先生（鳥取大学大学院工学研究科）より、支部だよりの新しい趣向として若手発表優秀賞受賞の学生がその内容について執筆してはどうか？とのご依頼をいただきました。このような機会を設けてくださりありがとうございます。

さて、若手発表優秀賞は第8回中国四国支部大会から始まったもので、今回で2回目となりました。顕彰を希望する学生は英語で口頭発表を行います。これは、支部大会で発表する学生に、目標達成のための刺



若手優秀発表者 金原さんへ表彰状を授与。



第9回中国四国支部大会参加者のみなさん。前列左から5人目が若手優秀発表賞を受賞した金原さん。

激“インセンティブ”を与えることを目的として作られたそうです(楯真一先生, 支部だより 57巻 no. 1)。発表では, 研究内容はもちろんのこと, 英語による発表の技能や英語による質疑応答も評価対象です。第1回の若手発表優秀賞受賞者は, 土井聡子さん(岡山大学大学院・医歯薬総合研究科(薬学系))でした。研究室の先輩である土井さんの受賞を間近で拝聴していた私(当時大学4年)は, カッコいい先輩に憧れ, 自分も続けたいと感じました。

発表は口頭とそれに引き続くポスターに分かれており, 特に前者は英語での発表と質疑応答だったので, 二重・三重のプレッシャーでした。しかし, その心理的負担を大きく上回る経験をすることができました。私は今回の発表を通して, 相手の立場に立って工夫した発表を心がけることができるようになりました。学生にとって, 分野の異なる研究は日本語でも理解するのが大変です。まして, 英語での発表です。どうしたら自分の発表が理解され, 興味を持ってくれるか考えました。私が特に工夫したことは4つあります。1つ目は, 簡単な単語や文章を使うこと, 2つ目は専門用語に日本語でルビをふることです。これは, 日本語で発表する場合でも意識すると思います。3つ目は, スライドの内容を視覚的に理解できるようにすることです。私の英語の発音が悪くて聞き取ってもらえなくても, スライドが理解に役立つように図や文字の色を工夫しました。4つ目は, 十分な間を作ることです。この間は, 緊張した自分を落ち着かせるわけではなく, 発表を聞いている人が発表内容を頭の中で整理してもらうための時間と考えています。聞いている人の表情や視線から, 次のスライドに進んでも大丈夫か, まだ

待った方がいいのか判断しました。今後も, この経験を生かした研究発表ができるよう日々研鑽したいです。

最後に, 私の発表を温かく見守ってくださった会場の皆様や, 口頭発表に対して質疑・好評をくださった田母神淳先生(松山大学薬学部), 松浦宏治先生(岡山理科大学生命医療工学科), 永野真吾先生(鳥取大学大学院工学研究科), ポスター発表にお越しくくださった方々, そして発表準備で大変お世話になった須藤雄気先生, 小島慧一先生(岡山大学大学院・医歯薬総合研究科(薬学系))へ, この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

10回目を迎える今年度支部大会は高知で開催

今年度の支部大会は第1回大会が開催された高知大学で, 山田和彦先生のお世話により来る5月19-20日に開催されます。私が鳥取に着任する前から開催されていますので, これまでのすべての支部大会には参加できていませんが, 瀬戸内の美しい直島のベネッセハウスにて合宿形式で開催された大会など, お世話いただく先生方の個性が感じられる手作りの支部大会が行われてきました。次回の高知大会では, おきゃく電車(高知では宴席のことを「おきゃく」と呼ぶそうです)での懇親会を用意して山田先生が中国四国及び近隣の皆さんの参加を心待ちにされています。10回目を迎える支部大会は, これまで中国四国8県で開催されてきました。あれ, 中国5県と四国4県で, 中国四国地区は9県じゃないのと思われた方, 鋭いです。実は島根で支部大会が未開催です。島根の生物物理学会会員の皆さん, まずは高知の支部大会への参加をお待ちしています!